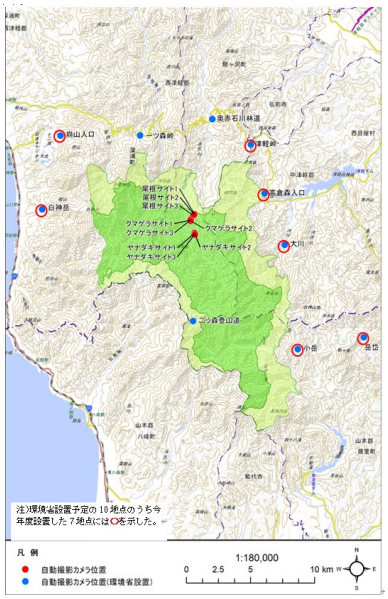
ID[注1]	251105	公開ﾚﾍﾞﾙ[注1]	C	保管形式[注1]	紙･電子	保管場所[注1]		前回ID	241105

報告書名称/調査名称	令和6年度 白神山地における中・大型哺乳類調査等業務 報告書	発行年月/報告年月	2025年 3月
		資料形式[注2]	報告書
調査機関	環境省 東北地方環境事務所	委託機関	株式会社 CTIリード
調査開始年	2013年 9月	調査期間	2024年 4月 ～ 2024年 11月
調査頻度[注2]	毎年	調査時期[注2]	春　夏　秋
ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ計画	2022年7月　策定	区分[注2]	ⅡB　大区分[注2] 2　小区分[注2] (1) (3)

調査箇所・範囲[注3]

☑ 核心地域　☑ 緩衝地域　☑ 周辺地域

☑ GPS等の位置データあり



調査手法

◆センサーカメラ設置箇所
・核心地域3地点 ：9台　（ﾌﾞﾅ林ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞｻｲﾄ　No1～No9）
・緩衝地域１地点：1台　（No11 高倉森入口）
・周辺地域6地点 ：6台
※周辺地域全９地点のうちｰッ森峠・ニッ森登山道・奥赤石川林道の３地点は道路の通行止めにより設置無し

◆調査期間
・令和6年4月12日～令和6年11月18日
（※調査地点によってカメラ設置期間は異なる）

◆使用機器
・TREL10J-D（㈱GI Supply）
・TREL18J-D（㈱GI Supply）

◆集計方法
撮影された全ての画像について、写真（核心地域）及び動画（緩衝・周辺地域）解析（動物種名の同定及び撮影頭数）を行った。
また、設置日数と撮影回数や撮影頭数から一定日数あたりの撮影個体数を算出して比較を行った。設置期間100日（CN：カメラナイト：カメラ1台を1晩かけた場合を1CNと定義したもの）あたりの延べ撮影個体数を主な哺乳類種を対象に算出した。

結果概要（スペースに収まるように入力してください）

■種類ごとの結果
哺乳類は15種（コウモリ類、イタチSp、ネズミ類及び不明種を除いた数）244頭が撮影された（表１）。このうち、白神山地での個体数増加が懸念されている種としてニホンジカ（3頭）とイノシシ（3頭）、ハクビシン（1頭）が撮影された。なおアライグマの撮影はなかった。最も撮影個体数が多かった種は、順に①ニホンザル（78頭）、②ツキノワグマ（54頭）、③ニホンカモシカ（28頭）であった。

■調査地点ごとの結果
中・大型哺乳類が多く撮影された地点は順に、①崩山（47回）、②大川（44回）、③尾根サイト1（19回）であった。確認種数は核心地域で10種、緩衝地域・周辺地域では14種で、撮影個体数と同様、緩衝地域・周辺地域のほうが4種多かった。なおハクビシンが核心地域のみで確認された。一方で緩衝地域・周辺地域でのみ確認された5種おり、その中にはニホンジカとイノシシの2種が含まれていた。

■ニホンジカ撮影状況
令和６年度は周辺地域で3回撮影された（表１）。本調査におけるニホンジカの確認は平成26年度ニッ森気象施設の地点で初めて撮影されて以降、平成27年度１頭、平成29年度2頭、平成30年度4頭、平成31（令和元）年度１頭、令和2年度1頭、令和5年度2頭となっている。

■イノシシの撮影状況
令和６年度は周辺地域で3頭が撮影された（表１）。本調査におけるイノシシの確認は平成 26 年からの調査を通じて初めての確認であった。

問い合わせ
環境省東北地方環境事務所　西目屋自然保護官事務所
〒０３６-１４１１　青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田６１-１
TEL:０１７２－８５－２６２２　FAX:０１７２－８５－２６３５

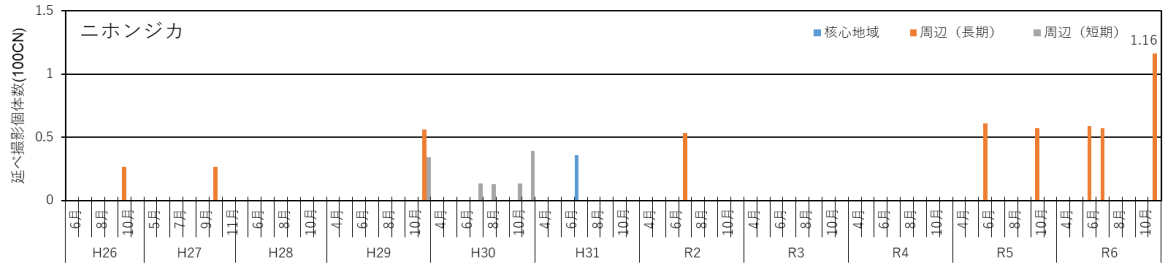
≪原本（データ）の帰属について≫

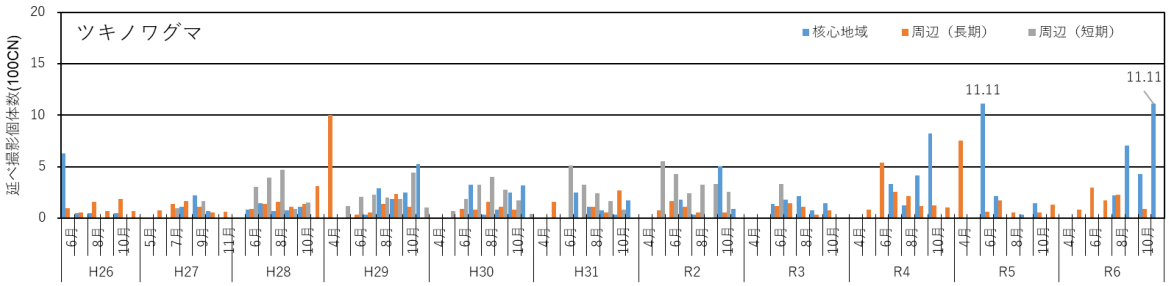
注1）「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
注2）ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
注3）該当する項目の□をクリックし、チェックを入れる。

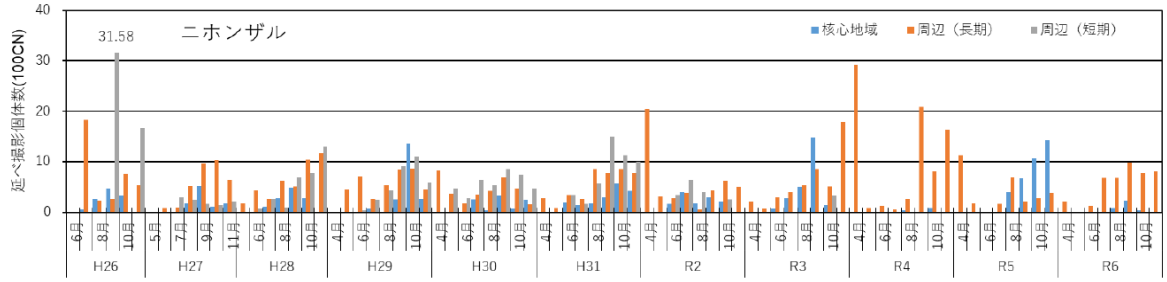
備　考

表1　地点別延べ撮影個体数（哺乳類）

種名	核心地域										緩衝地域・周辺地域								合計
	尾根サイト			クマゲラサイト			ヤナダキサイト			小計	大川	高倉森	津軽峠	崩山	白神岳	小岳	岳岱	小計	
	1	2	3	1	2	3	1	2	3										
コウモリ類										0	1	1	1	1				4	4
ニホンザル	3	1	2	1	2					9	35	5	3	22	2	1	1	69	78
タヌキ	7	7		1			2	1		18		3	1	5				9	27
キツネ								1		1		3	1	2	1		1	8	9
テン							1	1		2		1		4		1		6	8
イタチ										0				2				2	2
アナグマ	1									1					1			1	2
イタチ科							2			2								0	2
ツキノワグマ	5	7	7		1	3	6	7	3	39	5	2	4			4		15	54
ハクビシン								1		1								0	1
イノシシ										0					3			3	3
ニホンジカ										0					3			3	3
ニホンカモシカ	3	1	1	1	1	1		2	1	11	3		3	5	4	2		17	28
ニホンリス			3		1					4			1					1	5
ホンドモモンガ										0					1			1	1
ネズミ目										0				4			1	5	5
ヤマネ										0		1					3	4	4
ノウサギ				3	1	1				5		1		2				3	8
合計	19	16	13	6	6	5	11	13	4	93	44	17	14	47	15	8	6	151	244







●モニタリングサイト・・・核心地域3サイト（尾根・クマゲラ・ヤナダキ）
●周辺（長期）・・・・・・6年以上調査を実施した箇所
●周辺（短期）・・・・・・1～5年調査を実施した箇所

図1．エリア別の月別延べ撮影個体数の経年推移

備　考

■経年推移の比較
・ニホンジカは令和６年度調査では周辺地域で3回撮影された。本種は平成26年度から周辺地域で疎らに撮影されており、平成31年（令和元）度には核心地域でもオスジカ１頭が撮影されている。経年的に撮影頻度は高くなく確認されるシカの多くはオス個体ではあるが、シカの高密度化による高い採食圧は希少植物の消失や植生衰退などの危険性があるため、メス個体出現や幼齢個体の出現状況など注視していく必要がある。

・ツキノワグマは緩衝地域・周辺地域の崩山、白神岳、岳岱を除く全地点で確認された。特に核心地域の尾根サイトとヤナダキサイトでの撮影が多かった。令和６年度はブナの実が豊作であったことから、ブナが優占する核心地域にクマが多く滞在したものと考えられる。

・ニホンザルはヤナダキサイトを除く核心地域及び緩衝地域・周辺地域の全地点で確認され、特に緩衝地域・周辺地域の大川と崩山での撮影が多かった。10月から11月に核心地域で確認されなかったことに対し、周辺地域では確認されている。これは冬季に向けて生息地を山地から山麓へ移動したものと考えられる。

ツキノワグマとニホンザルはブナなどの堅果や液果類など各種餌資源の各年の結実量によって活動量や生息地に変化が生じる。また、麓の果樹園などを餌場にすることも知られていることから、今後も出現傾向を注視していく。